

# 取扱説明書

## モノタロウ ガレージジャッキ 低床 3t ダブルピストン プロ用

注文コード: 07571007

このたびは、ガレージジャッキ 低床 3t ダブルピストン プロ用をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。また、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

### 1 安全にお使いいただくために

ここに書かれた注意事項は、人体への危害や財産への損害を未然に防止するための内容です。  
いずれも安全にお使いいただくためには重要ですので、必ずお守りください。

**危険** この表示内容を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめしています。

**警告** この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は、死亡や重傷などの重大な傷害に結びつく可能性があります。

**注意** この表示内容を無視して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

#### ご使用上の注意

【はじめに】 誤った使用方法により人的傷害や製品の破損、その他の物的損害が生じた場合、一切の補償、責任を負いません。  
また、本製品の分解・改造・修理は、決して行わないでください。

##### 危険

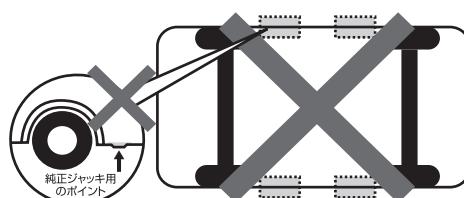
- 本製品は自動車のタイヤ交換や整備のためのものです。本来の用途以外で使用しないでください。また、本製品を絶対に改造しないでください。
- 自動車をジャッキアップ・ジャッキダウンさせる際は、車体の下や周りに人がいないこと、他の車両や工具、部品がないことを確認してから作業を行ってください。また、ジャッキアップ中に車両の下へ手、足、身体を入れないでください。ジャッキを下げる際も車両の下、周囲に人や物がないことを確認してください。
- ジャッキを設置する際は使用中に絶対にジャッキが外れない部分に設置してください。ジャッキアップしている対象物を破損させたり、対象物が落下するなどの危険性があります。
- 本製品はジャッキアップするためのご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態のままで保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドを2個ご使用ください。**
- ジャッキを使用する前に負荷のない状態でジャッキアップテストを行ってください。
- 最大荷重(3t)を超える負荷で使用しないでください。
- 安全バルブは適正な荷重になるように出荷時に調整されているため、絶対にさわらないでください。**
- ジャッキアップした状態で車両から離れないでください。
- 安全のため、別売りのジャッキスタンドで支えながら作業してください。

##### 警告

- 本書をよく読み十分に理解したうえで使用してください。本書に記載の注意事項を必ずお守りください。
- 本製品は自動車整備に関する一般的な知識を有する方が使用することを前提に作られています。
- ジャッキに異常が発生した場合(オイル漏れ、変形など)、使用をただちに中止して、異常箇所の修復を完全に行うまで使用せず、モノタロウお問合せ窓口までご連絡ください。
- そのままご使用になった場合、重大な事故につながり大変危険です。
- ジャッキアップする際は必ず平らで固い路面の上で行ってください。傾斜地や凹凸のある地面、柔らかい地面では使用しないでください。
- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。  
地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。
- ジャッキアップする前に、必ず車のサイドブレーキを引き、ジャッキアップしない方のタイヤに輪止めをしてください。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店などへ問合せ、必ず事前に確認してください。

必ずジャッキポイントが適切な位置が確認してから  
ジャッキアップしてください。また、ジャッキポイントが  
わからない方は、使用前に販売店および  
整備工場で確認してください。

★純正ジャッキ用のポイント(右図 [ ] 部分)で  
本製品を使用すると、車両を破損させる  
おそれがあります。このジャッキポイントでの  
使用は絶対におやめください。



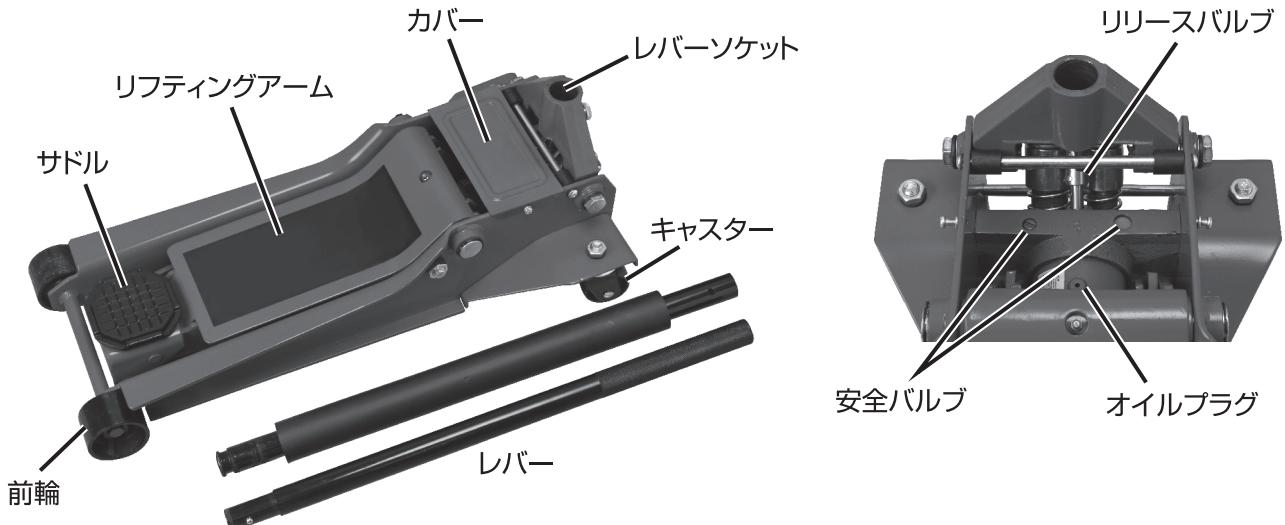
## ⚠️ 警告

- 電子制御サスペション車の場合は、必ず自動車に添付の取扱説明書を確認してからジャッキアップしてください。
- 車両指定のジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキポイントの形状とサドルの形状が合っているかを必ず確認してください。
- 形状が合わない場合に無理にジャッキアップするとジャッキポイントが破損するおそれがあります。
- ジャッキアップやジャッキダウン中にジャッキアップした物を揺らしたり、力を加えたりしないでください。  
また、レバー以外の場所には絶対に触れないでください。
- ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがずれることができますので、時々確認しながら作業を行ってください。
- ジャッキを下げる際は、必ずゆっくりとレバーを回してリリースバルブを緩めてください。速く緩めると車両が急に降下して大変危険です。
- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。

## ⚠️ 注意

- 2台以上の複数のジャッキを同時に使用しないでください。
- ジャッキを持ち運ぶ際や、ジャッキの上げ下げの際に、ジャッキの可動部分で指などを挟まないよう注意してください。
- ジャッキアップする時以外はレバーを本体から外しておいてください。
- 購入時はリリースバルブは少し緩んだ状態です。

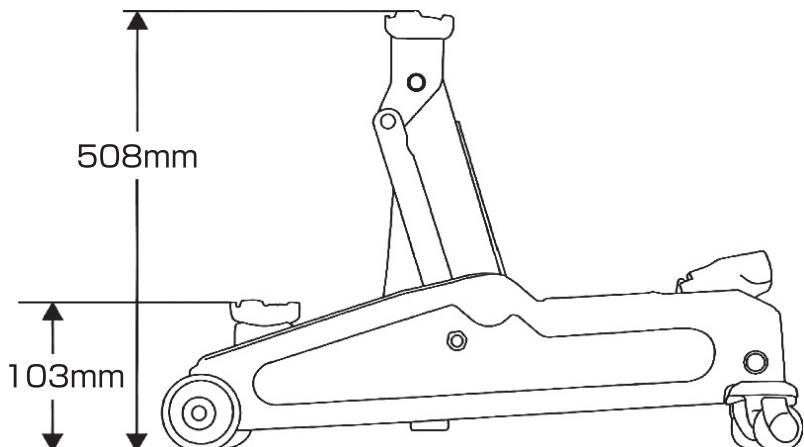
## 2 各部の名称



## 3 製品の仕様

最大耐荷重	3トン
使用温度範囲	-20°C ~ +45°C
適用車両	3トン以下
寸法(W×H×D)	703×342×162
揚程	最低位 103mm 最高位 508mm
質量	43kg
サドル寸法	φ98mm
レバー長さ	1280mm(2本接続時)
作動油	油圧潤滑油

※ 上記の仕様は、予告なしに変更することがあります。



## 4 ご使用方法

### 1 ジャッキアップ方法

① 平らで固い路面にジャッキを置き、車両のジャッキポイントの位置にサドルを合わせます。

#### ⚠️ 警告

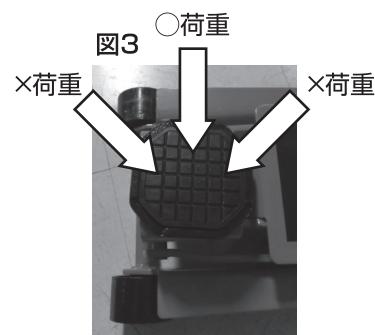
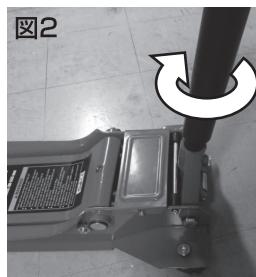
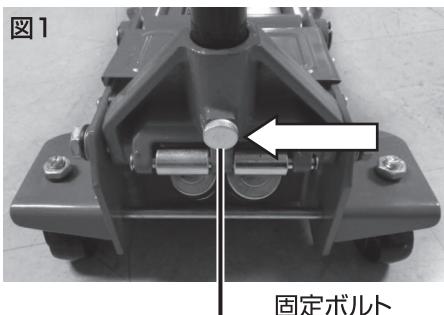
- 左右両輪をジャッキアップする場合は、反対側の車輪に必ずタイヤストッパーなどの車輪止めを使用してください。
- ジャッキアップの際に自動車のサイドブレーキをかけ、シフトはP(パーキング):A/T車、ロー:ミッション車の位置にして作業してください。

② 2本のレバーをしっかりと接続してください。しっかりと接続が出来ていない場合、リリースバルブを締める際に力がかからず、きっちりと締めることができません。

③ レバーをレバーソケットに差し込み、固定ボルトをしっかりと締め、レバーが抜けない様にしてください。(図1)

#### ⚠️ 注意

- レバーの角穴とレバーソケット内部の角軸の向きを合わせてレバーを差し込んでください。
- レバーを引っぱり、抜けないか確認してください。抜ける場合はレバーの角穴とレバーソケット内部の角軸の向きを確認してください。
- ④ レバーを時計回り(右)に回して、リリースバルブをしっかりと締め付けてください。(図2)この時、締め付けが不十分な場合、ジャッキアップしなかったり、下がってきたりしますのでしっかり締めてください。ただし、過度に締め付けると故障の原因になります。
- ⑤ レバーを上下に動かしてサドルをジャッキポイントの近くまで上げて、いったん停止します。
- ⑥ 荷重がサドルの中心にまっすぐかかるのをよく確認します。(図3)
- ⑦ 確認できたら、再度レバーを上下に動かして車両をジャッキアップします。



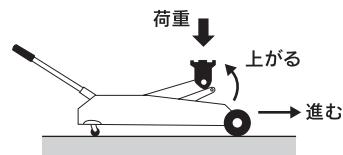
#### ⚠️ 警告

- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。故障の原因になるだけでなく、ジャッキポイントの変形や荷重バランスの崩れによる事故の原因となります。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店等へ問合せし、必ず事前に確認してください。
- 自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体が変形したり荷重バランスの崩れにより**重大な事故**につながります。
- 傾斜地や地面が軟弱な場所および平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では使用しないでください。  
ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し**使用者が死亡したり負傷を負う危険があります。**  
また、傾斜地では**自動車が動きだして重大な事故になります。**
- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。  
地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

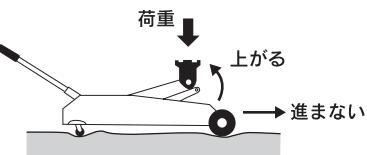
## △ 危険

- ・ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。  
アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

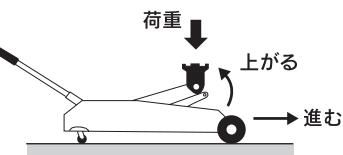
### ●強固な地面(可)



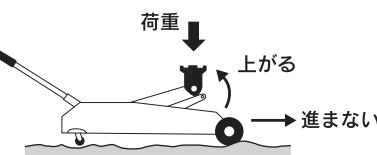
### ●柔らかい地面はめり込んで進まない(不可)



### ●鋼板等の強固な板を敷いた場合(可)



### ●凹凸な地面は前に進まない(不可)



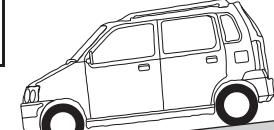
### ●傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないで下さい。



水平で強固な場所(可)



傾斜した場所(不可)



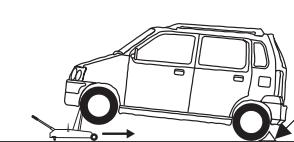
傾斜した場所(不可)

## △ 危険

- ・サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認してください。移動でき思いままで使用すると、サドルがジャッキポイントから外れ、自動車が落下し**死亡事故や重傷を負う危険**があります。



※図のようにジャッキアップ反対側に  
車輪止めをして下さい。



負荷点が移動

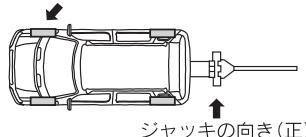


## △ 警告

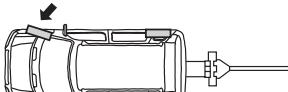
- ・ジャッキアップの際は、車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐにいれてください。  
ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し**使用者が死亡したり重傷を負う危険**があります。



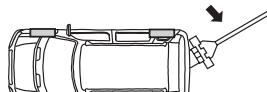
タイヤの向き



タイヤの向き



ジャッキの向き



- ・サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一時停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置(荷重の中心がサドルの中央にかかる位置)にセットされていることを確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体が変形したり、荷量バランスの崩れにより重大な事故につながります。

## △注意

- 重たい荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- 自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
- レバーの上下操作はレバーをしっかりと握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、レバーが急にはね上がったり操作が軽くなることがあります。ケガにつながり危険です。
- パンタジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップしないでください。**
- ジャッキが上昇しない場合やジャッキが下がってしまう場合は、リリースバルブが緩んでいる可能性がありますので、レバーを時計回り(右回り)に回してリリースバルブをしっかりと締めてください。
- 電子制御サスペション車の場合は、必ず自動車に添付の取扱説明書を確認してからジャッキアップしてください。
- 変速ギヤはオートマチック車の場合は「P」に、マニュアル車の場合は「ロード」または「バック」に入れてください。

## ■一定の高さで保持する場合

レバーの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

## △警告

- ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。**
- 車体の下に入って作業する場合は必ず十分な耐荷重のある別売のジャッキスタンドを使用してください。**
- ジャッキアップした状態のままで自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。
- ジャッキアップ中はノブを回転させて本体内部にあるリリースバルブを締めたり、ゆるめたりは絶対におやめください。

## ■ジャッキダウンの手順

レバー先端をリリースバルブに差込み、ゆっくりと回すとリリースバルブが緩み、サドルが下降します。(右図)  
この際、180°(半回転)以上緩めないでください。



## △警告

- レバーを急に回さないでください。リリースバルブが急に緩みサドルが急激に降りると自動車が落下し  
**使用者が死亡したり重傷を負うおそれ**があります。

## △注意

- オイル漏れや故障の原因になりますので、レバーは180°(半回転)以上回さないでください。
- ジャッキダウンの際に可動部分で手や指を挟まないように注意してください。

## ■作業終了

作業が終了したらサドル、リフティングアームなどに付着した泥、オイル、グリス、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

## 2 一定の高さで停止する場合

レバーの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

## △警告

- ジャッキアップしたままの状態で車体の下には絶対に入らないでください。車体の下に入って作業する場合は必ず十分な耐荷重のある別売のジャッキスタンドを使用してください。**
- ジャッキアップした状態のままで自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。
- ジャッキアップ中はレバーを回転させてリリースバルブを締めたり、ゆるめたりは絶対にしないでください。

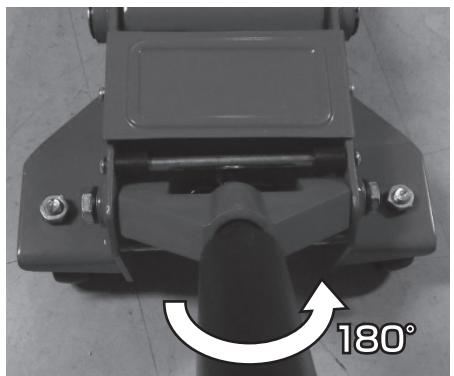
## 3 ジャッキを下げる場合

レバーを反時計回り(左)にゆっくり回しサドルを下降させてください。

図4

その際、絶対に180°(半回転)以上回さないでください。(図4)

オイル漏れや故障の原因になります。



## △警告

- レバーを急に回さないでください。サドルが急激に降りると自動車が落下し  
**使用者が死亡したり重症を負うおそれ**があります。

## △注意

- オイル漏れや故障の原因になりますので、レバーは1180°(半回転)以上回さないでください。  
オイル漏れや故障の原因になります。(図4)

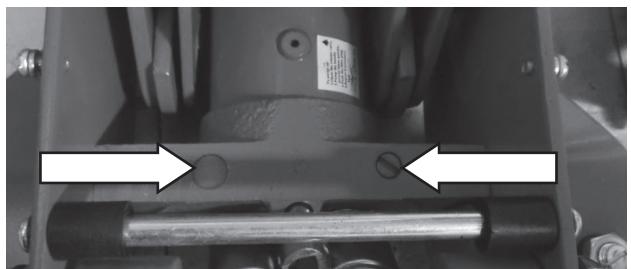
## 4 作業終了

作業が終了したらサドル、リフティングアームなどに付着した泥、オイル、グリス、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

## 5 安全バルブについて

- 安全バルブはジャッキアップが適正な荷量になるように出荷時に調整されておりますので、絶対に触らないでください。  
(ジャッキに適正荷重以上の負荷がかかった場合、作動しない様になっています。)
- (図5)

図5

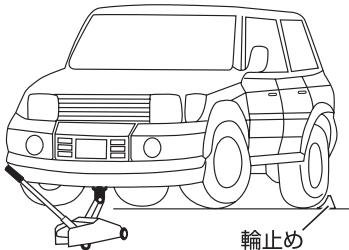


### △ 注意

- ・本製品をご使用の際は、必ず3t以下の車両にてご使用ください。
- ・車両をジャッキアップしたままの状態で触らないでください。
- ・ジャッキアップしたまま車両の下に絶対に潜らないでください。大変危険です。
- ・**本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。**  
**ジャッキアップした状態での作業は必ず別売のジャッキスタンドをご使用ください。**
- ・**車両の下で作業する場合は必ず別売のジャッキスタンドを使用してください。**
- ・本製品は業務用には使用しないでください。
- ・ジャッキを下げる際はレバーを必ずゆっくりと回し、緩めてください。(急に回しますと、車両がいっさきに下がりますので危険です。十分ご注意ください)

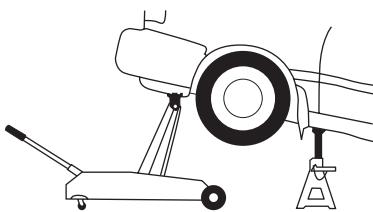
## 6 ジャッキアップ手順

1



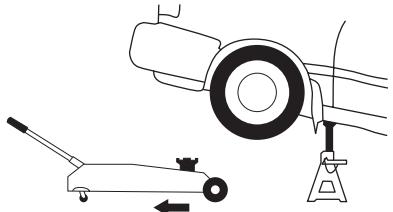
- ① ジャッキを使用してセンターでジャッキアップします。  
● ジャッキポイントは必ず確認してください。  
また、必ず輪止めをしてください。

2



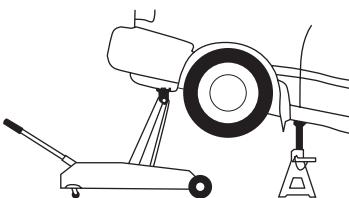
- ② ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを合わせて置きます。

3



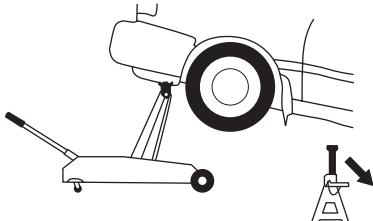
- ③ ジャッキを下げて移動させます。  
● 車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認後作業します。

4



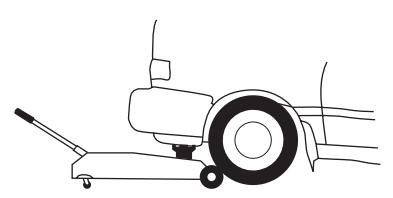
- ④ 作業が終わったらジャッキで車体を再度ジャッキアップします。

5



- ⑤ ジャッキスタンドを取り除きます。

6



- ⑥ ジャッキをゆっくり下げます。

### △ 危険

- ・ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。  
地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

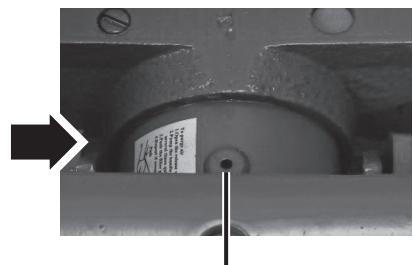
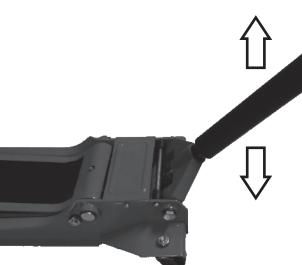
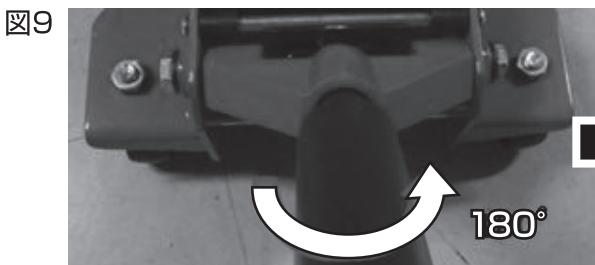
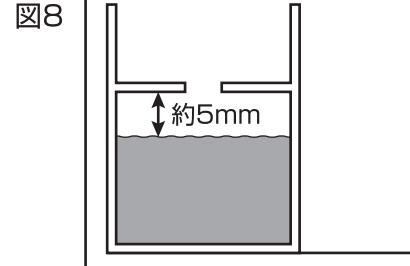
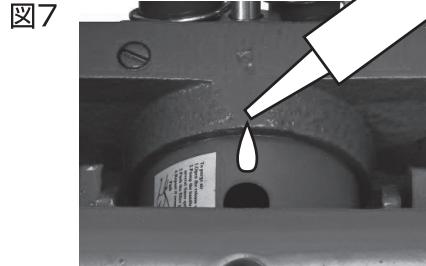
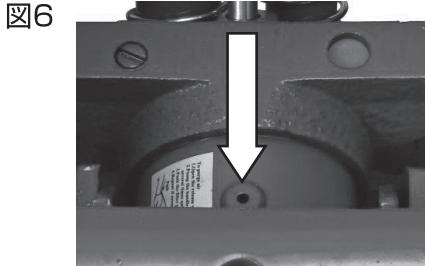
# 7 メンテナンス

## 1 ジャッキを揚げる場合

- ① ジャッキを使用しない時は、錆などによる動作不良防止のため、リフティングアームおよびレバーソケットを最下部まで下げておいてください。
- ② ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
- ③ ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
- ④ オイルの量が減少した場合、下記ジャッキオイルの補充および交換図を参照の上、適量を補充してください。
- ⑤ 頻繁にご使用になる場合、良好な状態を保つ為、約1年毎にジャッキオイルを交換してください。(下記ジャッキオイルの補充および交換図参照)
- ⑥ 錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たるところおよび湿気の多いところには保管しないでください。

## 2 ジャッキオイルの補充および交換

- ① プラスドライバーでカバー側面のネジを外しカバーを取り外してください。
- ② オイルプラグを工具等を使用して外し、レバーを左に回転させてゆるめます。(図6)
- ③ ジャッキオイル(別売)をオイルプラグの穴から入れすぎに注意して少量ずつ注入してください。  
また、オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。(図7)
- ④ ジャッキオイルの適量はジャッキを水平な場所へ置き、リフティングアームを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約5mmの空間を設けた位置です。(図8)
- ⑤ ジャッキが途中までしか上がらないときは、ジャッキオイルの不足またはエアー抜きが完全に出来ていないことが考えられますので  
ジャッキオイルを適正な量まで補充して、エアー抜きしてください。(図9)
- ⑥ 補充作業が終了しましたら、オイルプラグを元の状態に戻してください。



オイルプラグのすき間を開ける

- 正常に作動しない時は、2~3回くりかえし行ってください。

### △警告

- 火気のある場所やその近くでオイル交換および補充しないでください。

### △注意

- エンジンオイルや他のオイルは粘度等が違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないでください。必ずジャッキ専用オイルを使用してください。作動油:油圧潤滑油(粘度:ISO VG15をおすすめします)
- ジャッキオイルを補充する際にオイルタンク一杯に入れるとジャッキが作動しません。必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約5mmの空間を設けてください。

## 8 故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度取扱説明書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。それでも状態に変わりがない場合は、モノタロウお問合せ窓口へご相談ください。

症状	原因	対策
適正負荷でジャッキアップしない	オイル不足	オイル補充
	リリースバルブがしっかり締まっていない	リリースバルブを確実に締める
	油圧ユニットの故障	モノタロウお問合せ窓口へご相談ください
ジャッキが上で停止しない（自然に下降する）	オイル不足	オイル補充
	オイル漏れ	モノタロウお問合せ窓口へご相談ください
	リリースバルブがしっかり締まっていない	リリースバルブを確実に締める
ジャッキが最高位まで揚がらない	オイル不足	オイル補充
	油圧ユニットに空気混入	エアー抜きをする
ジャッキが最下位まで下がらない	各部の錆	潤滑剤を注油
	リターンスプリングの錆、へたり	リターンスプリングの交換
	油圧ユニットに空気混入	エアー抜きをする

## 9 関連商品

タイヤ  
ストッパー



ジャッキスタンド

